

おぼろげにの会ニュース

発行
平塚らいてうの会
〒112-0002
東京都文京区
小石川
5-10-20-5F
TEL・FAX
03-3818-8626

大きな見とおしを持つ

第11回総会にあたって

平塚らいてうの会会長・米田佐代子

▽ご寄付に支えられて

春とともに、らいてうの家は4月24日オープンです。4月29日の総会を前に、今年らいてうの会はもう一回り大きな見とおしを持った活動をしようという提案をいたします。そう決心した理由は、昨年の総会でご寄付をうったえたところ、目標を大きく上回る金額をお寄せいただいたことです。総額約八百万円に上るご寄付（このほかに送迎バス資金として大口のご寄付があります）の活用については総会報告にゆだねたいと思いますが、みなさまの思いの深さに感動、このおこころ



「家」の庭の木立の向うに浅間山が見えています

もちに応えなくては、と痛感しました。どうぞご意見をお寄せください。

▽「地域」に根ざす施設として

第一に、これまでも「家」の活動を通じて「地域とのつながり」をめざしてきましたが、今年新しい「庭」を中心に、7月31日から8月8日まで「夏祭り」を開催、地域のみなさんが「自分たちの施設だ」と思ってくださいるような活動をしたと思います。祭りではコンサートや交流会、上田市内の棚田でも有名な「かかし」をつくったり、地元の会員はじめ、障害者施設や子どもたちも参加するアート作品展などに取り組む予定です。

▽プレ『青鞥』百年の取り組みを

第二に、らいてうの家をひらいてから、らいてうへの見方がどんどん新しくなっています。その成果もふまえて来年の2011年、『青鞥』創刊百年記念のイベントをしましょう。今年「プレ青鞥百年」を取り組みたいと思います。2月には小森陽一さんの「漱石とらいてう」が好評でしたが、5月15日にはらいてう忌のつどいとして、昨年女性文化賞を出してくださった高良留美子さんをお招きして「百年のわたしのメッセージ」を聴きます。どうぞご参加ください。2011年には

日本女子大を会場に国際シンポジウムや「家」を舞台にした記念イベントも計画中です。

▽「世界に発信するらいてう」になる

第一次大戦のころから「世界民」になって国と国が争う戦争をやめさせよう、と訴えたらいてう、戦後一貫して軍隊も軍事基地も要らない、憲法九条で世界平和を、と主張したらいてう、そのころどしは今こそ世界に伝えたいメッセージです。

会は昨年、オバマ大統領に核廃絶を訴える手紙を送りました。今年5月ニューヨークで開かれるNPT（核不拡散条約）再検討会議に向けて、核廃絶をめざす国際集会が行われます。会からも会長の米田を送ります。署名と参加費のカンパをひろげ、「みんなで参加」したいと思います。

こんなにやれるかしら、と思いつつ「生きることは行動すること」というらいてうのことを胸に刻んで今年もすすみましょう。

NPT再検討会議への米田会長派遣カンパを

前記のように私たちは、らいてうが望んだ「核兵器のない世界」、「ただ戦争だけが敵なのです」の思いを受け止め、その意思表示のために米田会長を「国際行動」に派遣することにいたしました。

決定が遅かったため「核廃絶署名」を短期間で集めねばなりません。また参加費（30万円以上）が必要です。毎度お願いで恐縮ですが会員のみならずみなさまのお力添えを心よりお願い申し上げます。

4月20日頃までに事務局へお送りいただければ幸いです。現在も次々と寄せられ感謝です。

2010年 らいてう講座ひろく

小森陽一さん

「漱石とらいてう」を語る



朝から雨模様の寒い

2月13日、上野駅前・東京文化会館大会議室で、表記のテーマによるらいてう講座が開催されました。「九条の会」事務局長として東奔西走の小森陽一さんは、東京大学大学院総合文化研究科教授の肩書きを持つ文学者。ど

んなお話が聞けるのかと期待に胸を膨らませた参加者で開会前に会場は満杯、あわてて椅子の補充をするなど盛会でした。
2時間近くにわたる、漱石研究家の小森さんのお話は内容が深く、とても要約はむずかしいのですが、平塚明（はる）と森田米松（草平）の心中未遂事件を起こした頃の時代背景、それに関わった漱石のそれ以降の作品に明らかに変化があったことなどをくわしく解説してくださり、たいへん興味深いお話でした。

まず、「平塚らいてう」と「漱石」の接点はどこにあるか。それは漱石が「三四郎」という小説を発表する5ヶ月前に発生する、平塚明と森田米松の塩原における「心中未遂事件」が接点になる

こと。マスコミの大スキャンダル報道で、漱石は2週間ほど家に森田米松をかくまって、森田の代理人として平塚家と交渉にあたり、妻子ある森田をいったん離縁し正式に平塚明と結婚させてはどうか、と提案。これに対し平塚明からは「封建的な方！」と一言で片付けられてしまう。このことが小説家・夏目漱石が誕生する上で極めて重要な一言であったこと。以後、漱石の頭の中にはつねに「封建的な方」の一言が張り付き、自分の考えが封建的だと気づくことによってそれまでの小説をつらぬいていた問題に気づいたのだと思うと。

そして小森さんは、文学者の目線で小説「三四郎」の内容を引用するなどして、日清戦争、日露戦争当時の時代背景や当時のマスコミの状況を分析・解説し、1911年に「青鞥」が創刊された必然性を話されました。

時代は、大逆事件を仕掛けていく方向に一気に流れていき、らいてうが女性たちだけの表現媒体「青鞥」を、物を書く女性たちが物を書くことによつて、人間としての自らのあり方を社会に向かつて表現していく、そのこと自体が本来の意味での新しい女の誕生ではなかったのか。そしてそこに小説としてのジャンルがあらたにもち始めた意味が刻まれているのではないかと締めくくられたのでした。

お話を聞いて、もう一度「三四郎」「それから」など読み直してみたいと思った方も多いのでは。また当日は、らいてうさんのお孫さん・直史さんご夫妻や北海道、高知、長野など遠方からもご参加がありました。

2010年「らいてうの家」で「夏祭り」

5年目の「らいてうの家」は、まずご寄付で広がった庭を整備したいと思います。森の専門家が間伐した後を笹刈りし、みんなで遊歩道をつくりましょう。5月中旬から6月中旬まで土日毎に汗を流しにきてください。5月23日（日）には植樹も行います（バスあり）。山菜も採れそう？

そして7月31日から8月8日まで「夏祭り」を開催します。オープニングの7月31日「大和田葉子野外フルートコンサート」を皮切りに、庭や薬草園、ログハウス、ホテルの施設などに案山子・オブジェ・絵画・彫刻などを地元の障害者施設の方や子どもも参加して展示したりライブをしたり。参加者が多ければ上田駅からバスも用意します。エンディングの8月8日の夜は星空観察会もしたいと考えています。秋には恒例のキノコなべや高原散策もしたいですね。（杉山 洋子）

上田・真田の『自伝』勉強会

上田・真田らいてうの会では、みんなで『らいてう自伝』を読もうという声が高まり、1月には上田プラザゆうで30人も集まりました。2月26日には真田林業会館でも大盛会。自慢のお漬物も出て話が弾みました。3月31日にもやります。

紀要三号「青鞥の時代と信州」準備中

『紀要』三号をつくっています。2011年「青鞥百年」のプレ企画として「青鞥の時代と信州」をとりあげます。同時代を生きた上田出身の女性群像などのほか、海外の『青鞥』やらいてう研究紹介の力作も。6月刊行予定。

『青鞥』創刊百年記念事業について

2010年は、「日韓併合百年」「大逆事件百年」にあたりますが、そんな時代、1911年に『青鞥』が創刊されました。『青鞥』創刊百年記念事業として、次のような企画が進行中です。

【1】2010年「らいてうの家」企画展示

—『青鞥』百年と信州—

らいてうは塩原事件の後、スキヤンダラスな「禅学令嬢」とマスコミにたたかれ、その秋にお茶の水高女時代の友人を訪ね信州松本へ行きました。東筑摩郡中山村の養鯉所の離れに滞在、大自然の中で自己と人間とを見据えて再び生きる力を取り戻します。その頃のエッセイ「高原の秋」に「この山岳をもっている信州人はなんて幸福な人」と書いています。そんな信州から『青鞥』の時代を見る企画です。

【2】2011年9月「『青鞥』百年記念国際シンポジウム」

海外で『青鞥』の研究が盛んになっている状況から、海外での研究動向の紹介、国内のさまざまな分野からの『青鞥』研究の紹介とともに討論と交流を図ります。（日本女子大学「新しい女研究会」と『青鞥』百年を記念する会により開催の予定。らいてうの会は協力団体として参加）。

日時 2011年9月10日（土）
場所 日本女子大学

【3】2011年9月、講演会開催

詳細は未定ですが「青鞥百年」にふさわしい行事を計画中です

『青鞥百年』プレ企画

百年のわたたちのメッセージを聴く

2010年らいてう忌

第13回女性文化賞受賞記念のつどい

日時 2010年5月15日（土）

午後1時半～4時

場所 婦選会館多目的ホール（代々木）

お話 高良留美子さん

コーディネーター 米田佐代子さん

詩人としてのしなやかな感性と時代を見据える批評精神の持ち主高良留美子さんが平塚らいてうや高良とみにもふれながら時代を生きた女性像をさぐります。

東京でも「らいてう再発見」勉強会

2月20日の夜、都内の小さな喫茶店で「らいてう再発見勉強会」が開かれました。

戦後のらいてうは、突然「平和・平和」と言い出したといわれるが、らいてうの平和主義は戦後にわかに生まれたものではなく、第一次大戦のころ出産して自覚した母性主義から始まり、クロポトキンの「協同自治社会」への共鳴へと発展した、と講師の米田さん。らいてうでさえ戦時中真実を知りえなかった時代からみると、いま私たちはあふれる情報の中で何が真実か、自分の眼を持つて現実を見ることが求められている、と感じました。次もやりたいね、と約束して帰路につきました。

（小野塚 歩）

新緑のらいてうの森に集いましょう

らいてうの森最後の植樹

5月23日（日）10時より

らいてうの家のオープンからの始まった「らいてうの森」への植樹も今年で5回目となります。今まで植えてきたおよそ1000本のブナを主として、キハダ、ヤマグリ、山桜などの苗木はすくすくと育って、心地よい空間が広がってきました。今年は、200本のブナの木を植え、植樹の一区切りとします。春の芽吹き美しいカラマツ林で苗木を植えてみませんか。参加できない方には、苗木オーナーとして、1口1000円の植樹基金を募集します。当日は、上田駅からバスも出ます。森のいのちふれあう仲間が集い、森と仲間の楽しい交流の1日としたいと思います。参加希望、植樹基金応募は事務局にお問い合わせください。

らいてう直筆のはがき寄贈される

このほど東京の内山書店社長内山籬^{マカキ}さんから、「父嘉吉に宛てたらいてうの直筆葉書」をらいてうの会にご寄贈くださることになりました。嘉吉さんは内山完造の弟で博史と親しく、上海で魯迅との交友もあった方です。1965年に櫛田ふささんたち婦団連の代表が訪中したとき、魯迅夫人の許広平さんが博史の指輪をつけてあらわれたと記された貴重な資料です。

「家」に展示したいと思えます。

らいてうの家を応援して

— 建築家 永橋為成さん

交通不便な山林に、らいてうの記念施設をつくるだろうか―迷っていた私たちの背中を押してくれたのが永橋さん。つきつきりで「応援団」になってくださいました。新刊の『らいてうの家 四季ものがたり』は、表紙を飾る永橋さんのスケッチが好評です。この機会にお話をうかがいました（聞き手―米田佐代子）。



米田―子どものとき、広島
島の原爆に遭遇されたそうですが…。

永橋―生まれは逗子ですが、ぼくが一年生になる時、海軍軍人の父親が江田島の兵学校に赴任したのです。8月6日は校庭で遊んでいて、閃光と続く轟音に仰天して防空壕に逃げ込みました。壕を出て見上げた古鷹山の上に沸き昇るピンクの入道雲に驚きましたね。戦後、江田島小学校の親友が被爆者で、遊んでいて急に正座して語った彼のあの地獄の話は忘れられません。ぼくの「戦争反対」の原点です。核兵器廃絶の建築家の会を立ち上げ、また上野の森に「広島・長崎の火」を灯す会のモニュメント建設にかかりました。その「灯す会」でらいてうの会の木村康子さんと出会ったのがはじまりです。

米田―「平和」がご縁だったのですね。設計をお願いしようと思ったなら「地元の女性建築士の力



広島・長崎の火を灯す会のモニュメント

を」と言われて「目からウロコ」でした。永橋―東京芸大卒業後、

吉村順三設計事務所11年間働き、設立に参加して移籍した中央設計という設計事務所、「施設づくりは人づくり、まちづくり」と考え、「関係者が参加して学習しながら進める参加型の共同設計」をうたい文句に設計活動を進めてきました。「女性九人衆」のみなさんの「家」づくりはまさにその実践だったと思います。

もう一つ、映画『痴呆性老人の世界』を通じて知り合った羽田澄子監督を、後日座談会にお招きした時言われた言葉「その人の人生を生き通すという視点を持った場合、建築はどうあるべきかの発想が大切」を座右の銘にしています。羽田さんの『平塚らいてうの生涯』を観て、その会がつくる「家」は、らいてうが選んだ地で、まちづくりから世界平和の思いまで語り合う場になると確信したものです。今や「家」は地域から全国、いや世界への発信拠点になりつつあると思いますね。米田―今年NPPT再検討会議に向けて核廃絶をめざすニューヨーク集会にも参加し、地域のみなさんと手づくりの「夏祭り」もやって、地域と世界をつなぎたいと思っています。元気になるお話をありがとうございます。

【事務局日誌】

- 1月12日 りいてうの会のこれからのについてのプロジェクト会議
- 1月15日 上田・真田「らいてう自伝」勉強会
- 1月21・22日 小林登美枝さん資料整理作業
- 1月26日 記録映画を上映する会理事會出席
- 1月27日 「らいてうの家」新案内リーフ作成打ち合わせ
- 1月28日 「青鞥」創刊百年記念国際シンポジウムについて、シンポジウム実行委員會と日本女子大学側との話し合い
- 2月5日 第5回常任理事會
- 2月10日 第4回理事會開催
- 2月13日 りいてう講座「漱石とらいてう」講師小森陽一さん 於東京文化會館
- 2月15・16日 小林登美枝さん資料整理作業
- 2月26日 第2回上田・真田「自伝」勉強會
- 3月8・9日 小林登美枝さん資料整理作業

第11回通常總會のご案内

- 日時 2010年4月29日（木）13：30
- 場所 東京ウイメンズプラザ視聴覚室
- 審議事項 ①09年度事業報告と決算報告
②10年度事業計画と予算（案）
③役員選出 他

「家」案内リーフレットをフルカラーに
らいてうの家の案内リーフを美しいフルカラー
でリニューアルします。入会案内も加えましたの
で、活用してください。（4月中旬完成予定）